



ボランティアに期待すること

松江市民活動センター
事務局長 小塚 豊

松江市ボランティア協議会結成30周年おめでとうございます。今年は31年目の年にあたり、また新たな挑戦の時期を迎えるのではないかと思います。

さて日本の人口は人口問題研究所（総務省の外郭団体）の将来人口推計では、2048年には1億人を切り、1.07人の生産年齢人口の人で年少者や高齢者1人を支えなければならない時代が到来することといわれています。人口減少をできるだけ食い止める努力は国を挙げて取り組まなければならない喫緊の課題ですが、すぐに効果が出るというものでもありません。

また大きな災害を受けたことのない私たち松江市民にとっては、東日本大震災は遠くのことと思いがちです。人口減少は先のこと、大災害は起こらないものと無関心になりがちです。加えて日本が豊かになって便利になり自分の欲求を満たすことができた反面、「お互いさま」「みんなのために」といった想いが薄れてきたような気がしてなりません。

近年今までは考えられなかったような豪雨災害が各地を襲っています。先日の広島で起きた大規模土石流災害も決して他人事ではありません。

今また、「共助」が必要な時代が訪れています。ボランティアの皆さんの力が求められています。松江市ボランティア連絡協議会には企業や地域、個人の力が結集されています。高校生や大学生など若い世代もボランティア活動を行っています。こうした若い力を積極的に取り込んでいただき、20年先、30年先を見据え、若い発想や行動力も活動の新たな推進力とされ、一層飛躍されますことを期待しています。



水郷祭